

農林業系副産物の焼却に係るモニタリング測定結果【H27.11月実施分】

平成27年12月15日

放射性物質に汚染された農林業系副産物（ほだ木）の焼却処理を平成26年12月26日（金）から開始しました。H27.11月の放射性物質を測定した結果、各施設（焼却施設・最終処分場）において、
「すべての項目が基準値以下」となり、安全性が確認されました。

1 岩手・玉山清掃事業所

(1) 処理対象物の測定結果

① 簡易測定

(単位:ベクレル/kg)

期 日	焼却処理対象物	放射性セシウム (134CS+137CSの合計)	備考
H27.11.27(金)	ほだ木 690.0kg	8.06	

※ 測定者:岩手・玉山清掃事業所、測定機器:シンチレーション検出器

測定結果: いずれも、国の基準値「8,000ベクレル/kg以下」であり、「一般廃棄物」として取り扱います。

※処理対象物の国の基準値

- ・8,000ベクレル/kg以下は、「一般廃棄物」として市町村が処理を行う。
- ・8,000ベクレル/kgを超えるものは、「指定廃棄物」として国が処理を行う。

(2) 排ガス測定結果

(単位:ベクレル/m³)

期 日	項 目	放射性セシウム			検出限界値		備 考
		134 CS	137 CS	合計	134 CS	137 CS	
H27.11.27(金) 焼却中(1号炉)	ろ紙部	不検出	不検出	不検出	0.32	0.25	
	ドレイン部	不検出	不検出	不検出	0.72	0.73	

※ 測定者:エヌエス環境㈱、測定機器:ゲルマニウム半導体検出器

※ 11月は焼却施設工事のため片方の炉で焼却運転

測定結果: いずれも、「不検出」となり、国の管理基準値を満たしています。

※排ガスの国管理基準値

$$\frac{\text{セシウム134 (Bq/m}^3\text{)}}{20 \text{ (Bq/m}^3\text{)}} + \frac{\text{セシウム137 (Bq/m}^3\text{)}}{30 \text{ (Bq/m}^3\text{)}} \leq 1$$

(3) 空間線量率測定結果

(単位:マイクロシーベルト/時)

期 日	処理対象物	施設内		施設周辺			
		灰搬出 (焼却炉付近)	ごみピット内	施設入口	駐車場	粗大ごみ	ストックヤード*
H27.11.6(金)	焼却休止日	0.04	0.04	0.04	0.06	0.04	0.04
H27.11.13(金)	焼却休止日	0.05	0.04	0.04	0.06	0.04	0.04
H27.11.20(金)	焼却休止日	0.05	0.03	0.05	0.05	0.04	0.04
H27.11.27(金)	焼却日	0.05	0.05	0.05	0.07	0.06	0.06

※ 測定者:岩手・玉山環境組合、測定機器:シンチレーション式サーベイメータ

測定結果: いずれも、国の基準である「0.19マイクロシーベルト/時」を大きく下回っています。

※追加空間線量率の国の基準値

追加被ばく線量年間1ミリシーベルトを1時間あたりに換算すると、毎時0.19マイクロシーベルトとなる。

(4) 焼却灰(主灰)の測定結果

① 簡易測定

(単位:ベクレル/kg)

期日	処理対象物	放射性セシウム (134CS+137CSの合計)	備考
H27.11.27(金)	ほだ木	39.38	

※ 測定者:岩手・玉山清掃事業所、測定機器:シンチレーション検出器

② 精密測定

(単位:ベクレル/kg)

期日	処理対象物	放射性セシウム			検出限界値	
		134CS	137CS	合計	134CS	137CS
H27.11.27(金)(1号炉)	ほだ木	不検出	13	13	8.0	10.0
(参考)H26.11.21	(前年比較)平常時	不検出	13	13	13.0	10.0

※ 測定者:エヌエス環境(株)、測定機器:ゲルマニウム半導体検出器

※ 11月は焼却施設工事のため片方の炉で焼却運転

(5) 焼却灰(飛灰)の測定結果

① 簡易測定

(単位:ベクレル/kg)

期 日	処理対象物	放射性セシウム (134CS+137CSの合計)	備考
H27.11.27(金)	ほだ木	83.43	

※ 測定者:岩手・玉山清掃事業所、測定機器:シンチレーション検出器

② 精密測定

(単位:ベクレル/kg)

投入期日	処理対象物	放射性セシウム			検出限界値	
		134 CS	137 CS	合計	134 CS	137 CS
H27.11.27(金)(1号炉)	ほだ木	不検出	67	67	16.0	14.0
(参考)H26.11.21	(前年比較)平常時	23	96	119	13.0	13.0

※ 測定者:エヌエス環境(株)、測定機器:ゲルマニウム半導体検出器

※ 11月は焼却施設工事のため片方の炉で焼却運転

測定結果: 焼却灰の(主灰・飛灰)のいずれも、独自の受入基準値「1,000ベクレル/kg以下」となっています。

※岩手・玉山清掃事業所の独自基準値 1,000ベクレル/kg以下 (国基準値8分の1以下)

※焼却灰の国管理基準値 8,000ベクレル/kg以下

2 岩手町一般廃棄物最終処分場

(1) 放流水、周辺地下水測定結果

(単位:ベクレル/L)

期 日	項目	放射性セシウム			検出限界値		備考
		134 CS	137 CS	合計	134 CS	137 CS	
H27.11.11(水)	放流水	不検出	不検出	不検出	1.2	1.0	
	周辺地下水(上流)	不検出	不検出	不検出	1.2	1.2	
	周辺地下水(下流)	不検出	不検出	不検出	1.4	1.2	
(参考:前年比) H26.11.27	放流水	不検出	不検出	不検出	1.3	1.4	
	周辺地下水(上流)	不検出	不検出	不検出	1.5	2.0	
	周辺地下水(下流)	不検出	不検出	不検出	2.0	1.7	

※ 測定者:エヌエス環境(株)

※ 測定機器:ゲルマニウム半導体検出器

測定結果: いずれも、「不検出」となり、国の管理基準値を満たしている。

※放流水の国管理基準値

$$\frac{\text{セシウム134 (Bq/L)}}{60 \text{ (Bq/L)}} + \frac{\text{セシウム137 (Bq/L)}}{90 \text{ (Bq/L)}} \leq 1$$

(2) 空間線量率測定結果

(単位:マイクロ・シーベルト/時)

区分	項目	敷地境界①	敷地境界②	敷地境界③	敷地境界④	バックグラウンド	備考
		敷地境界①	敷地境界②	敷地境界③	敷地境界④	バックグラウンド	
H27.11月	月平均	0.03	0.04	0.03	0.03	0.03	
	最大値	0.05	0.05	0.04	0.05	0.04	
	最小値	0.03	0.03	0.02	0.02	0.02	
(参考)H26.11月	(前年の月平均)	0.04	0.03	0.03	0.03	0.03	

※ 測定者:岩手町農林環境課

※ 測定機器:シンチレーション式サーベイメータ

測定結果: いずれも、国の基準である「0.19マイクロ・シーベルト/時」を大きく下回っています。

※追加空間線量率の国の基準値

追加被ばく線量年間1ミリシーベルトを1時間あたりに換算すると、毎時0.19マイクロシーベルトとなる。

3 盛岡市玉山廃棄物処分場

(1) 放流水、周辺地下水測定結果

(単位:ベクレル/L)

期 日	項目	放射性セシウム			検出限界値		備考
		134 CS	137 CS	合計	134 CS	137 CS	
H27.11.2(月)	放流水	不検出	不検出	不検出	1.1	1.3	
	地下水 上流	不検出	不検出	不検出	1.2	2.0	
	地下水 下流	不検出	不検出	不検出	1.4	1.5	
	原水	不検出	不検出	不検出	1.0	1.4	
	凝集沈殿汚泥	不検出	不検出	不検出	9.4	14.0	
(参考:前年比) H26.11.4	放流水	不検出	不検出	不検出	1.6	2.0	
	地下水 上流	不検出	不検出	不検出	1.6	1.6	
	地下水 下流	不検出	不検出	不検出	1.4	1.8	
	原水	不検出	不検出	不検出	1.9	2.0	
	凝集沈殿汚泥	不検出	不検出	不検出	12.0	12.0	

※ 測定者:エヌエス環境(株)

※ 測定機器:ゲルマニウム半導体検出器

測定結果: いずれも、「不検出」となり、国の管理基準値を満たしている。

※放流水の国管理基準値

$$\frac{\text{セシウム134 (Bq/L)}}{60 \text{ (Bq/L)}} + \frac{\text{セシウム137 (Bq/L)}}{90 \text{ (Bq/L)}} \leq 1$$

(2) 空間線量率測定結果

(単位:マイクロシーベルト/時)

期 日	項目	敷地境界①	敷地境界②	敷地境界③	敷地境界④	バックグラウンド	埋立地	備考
H27.11月	月平均	0.05	0.04	0.04	0.05	0.03	0.04	
	最大値	0.07	0.05	0.06	0.06	0.05	0.05	
	最小値	0.04	0.03	0.03	0.04	0.03	0.03	
(参考)H26.11月	(前年の月平均)	0.06	0.05	0.05	0.05	0.04	0.05	

※ 測定者:盛岡市リサイクルセンター

※ 測定機器:シンチレーション式サーベイメータ

測定結果: いずれも、国の基準である「0.19マイクロシーベルト/時」を大きく下回っています。

※追加空間線量率の国の基準値

追加被ばく線量年間1ミリシーベルトを1時間あたりに換算すると、毎時0.19マイクロシーベルトとなる。